

山ごころ

大滝せせらぎ

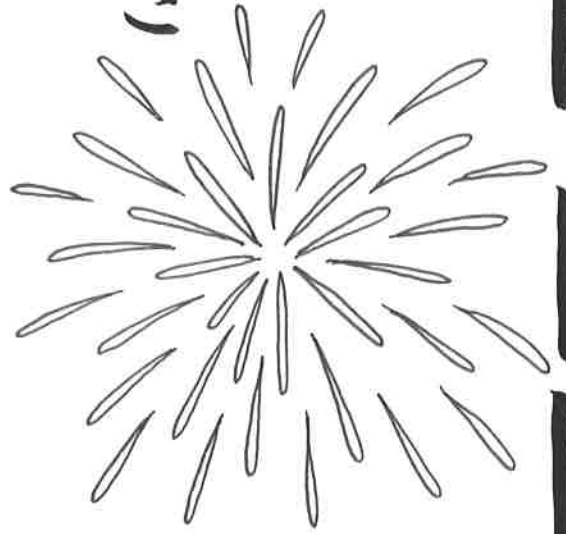
里ごころ

はたおと秩父

秩父市

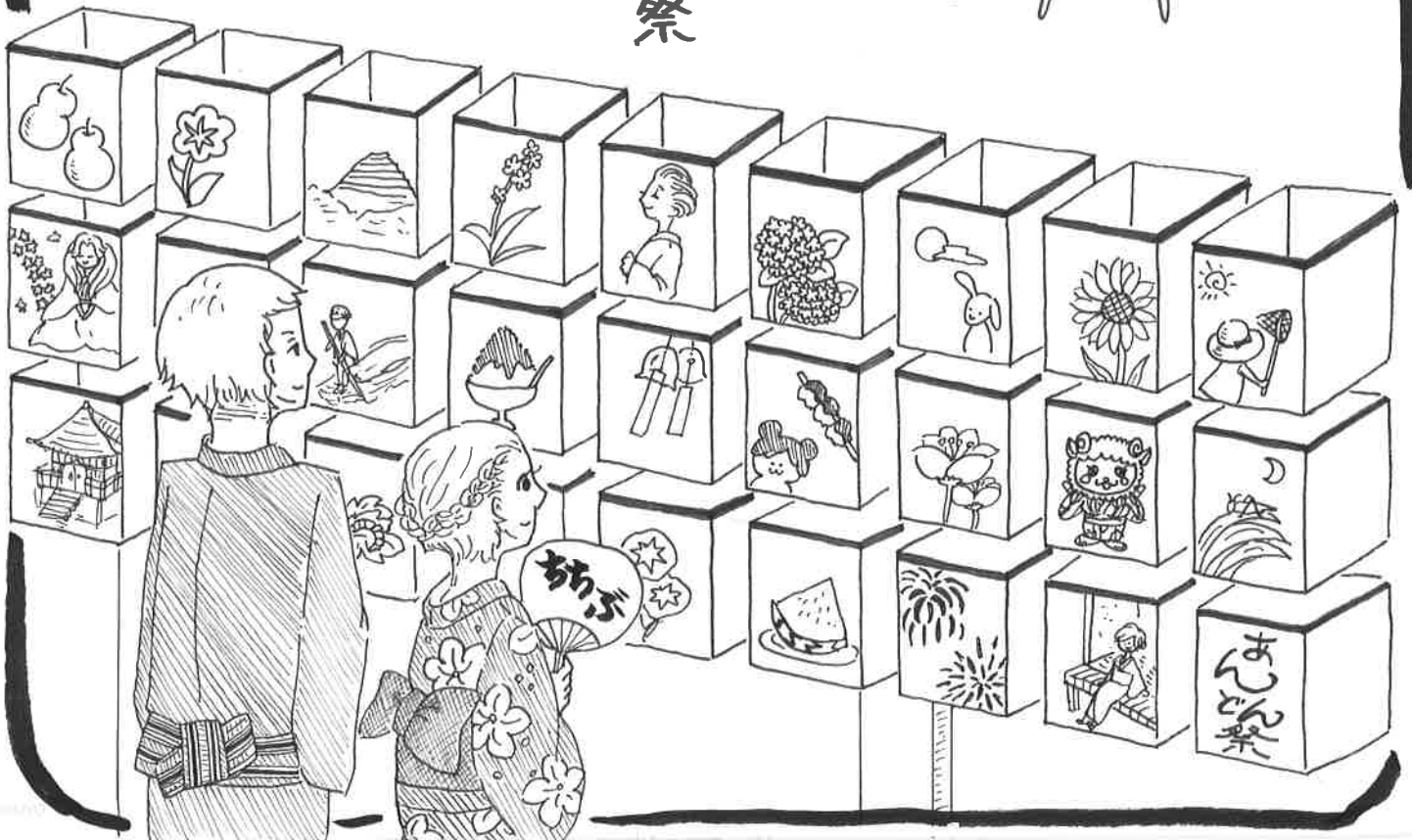
地域おこし協力隊たより

八月号 No. 33



8/16

秩父まごん祭



# 山ごころ はたおと秩父

## 銘仙豆知識

### 東秩父村地域おこし協力隊に

お会いしてきました！

今年の四月より、東秩父村地域おこし協力隊に着任された西さんにお会いしてきました。東秩父村の観光PRとして、和紙や自然など見どころを発信しています。同じ埼玉県、ナラには同じ秩父郡なので、ぜひ協力し合って協力隊として何かできればいいなと思います。

明々くやさしくかわいく

ステキな方でした！



## 自由研究はちちぶ銘仙館へ！



手織り  
コースター: 500円



型染め  
ハンカチ: 1,000円  
巾着: 1,000円



藍染め  
ハンカチ: 1,300円  
Tシャツ: 3,700円



専予約

ほぐし捺染

絹糸カスリ 5,000円

本格派は秩父銘仙の技術を体験できるこちらがオススメ!

開館時間: 9:00~16:00

休館日: 年末年始

入館料: 大人200円 小人100円

TEL: 0494-21-2112

お問い合わせ  
秩父市役所  
商工課  
地域おこし協力隊  
佐俣 菜津子

TEL

0494-21-2112

MAIL

SYNOOK@

chick-bun-jp.jp

フェイスブック

秩父地域おこし

協力隊にも

お問い合わせ!

秩父銘仙は最初質の高さを売りにしていましたが、昭和の初め頃になると服飾の流行はデザイン重視、品質は第二となり売れ行きが悪くなりました。秩父銘仙は暗いと言われ、一方伊勢崎・足利は華やかな色柄で人気を博していきます。そこで、当時の織物同業組合長の坂本宗太郎さんは三越百貨店の元幹部の方を染色と流行の顧問として迎え、染の技術向上と、流行を知ることには力を入れました。そうして品質とデザイン性を兼ねそろえた秩父銘仙は「見てよし、着てよし、為によし」の宣伝文句と共に再び流行の時代を迎えました。昭和五年には松坂屋上野店で当時流行していたマネキンガール（人形ではなく人が店頭でモデルとして立つ）を使った秋冬宣伝会を行いました。織物の宣伝でマネキンガールを起用したのはこれが初めてです。

参考資料: 秩父織物工業組合史



マネキンガールはお給料もよく10日も働けば公務員の初任給も超えたそうです

## プレゼンテーションイベント

7月18日、「Catal(カタコ)」というプレゼン

テーションイベントが所沢で開催され、埼玉県内で地域おこし活動を行っている個人や団体が、今までの活動の報告や、今後の目標について発表しました。私も秩父市地域おこし協力隊として発表しました。聞きに来られた方は22名で、ほとんどの方が埼玉県在住の方でした。

発表後は懇親会が行われ、そこで、発表を聞いてくれた方から、「大滝に遊びに行きたい」とか、「ツアーを開催したいし」などの嬉しいお話を頂きました。今回のイベントを通して、埼玉県在住の地域おこしに興味のある方々と繋がることができました。今後も大滝の魅力をPRして、協力者を募り、地域おこし活動に取り組んでいきたいです。

## 村おこしインターンシップ

7月31日、地域おこしや協力隊の活動について学ぶためのインターンシップ生として二人の大学生が大滝に来ました。そして、橋本にて、空き家の再生に、一緒に取り組んでもらいました。二人は埼玉県在住で自分たちの地元でも、地域おこしに取り組みたいと話してくれました。

「村おこしインターンシップ」は7月から9月末まで行います。地域おこしや協力隊の活動に興味のある方は左記のメールアドレスにご連絡ください。

## 空き家について

空き家は築100年以上の古民家ですが、後を掃い、箱巾で拭くと、本来の貌が戻ってきました。

今後も清掃を行い、地域と観光客を繋ぐ拠点にしたいと考えています。

秩父市地域おこし協力隊  
吉本 隆久

大滝総合支所 地域振興課 所属  
電話: 0494-55-0862 (課内)

E-mail: ccb.localact@gmail.com

Facebookページ

「いいね」をよろしくお願いします!



# 秩父歳時記 8月

## 小川の百八燈

開催日：八月十六日

秩父はお祭りの多い町!! その一部をご紹介します😊

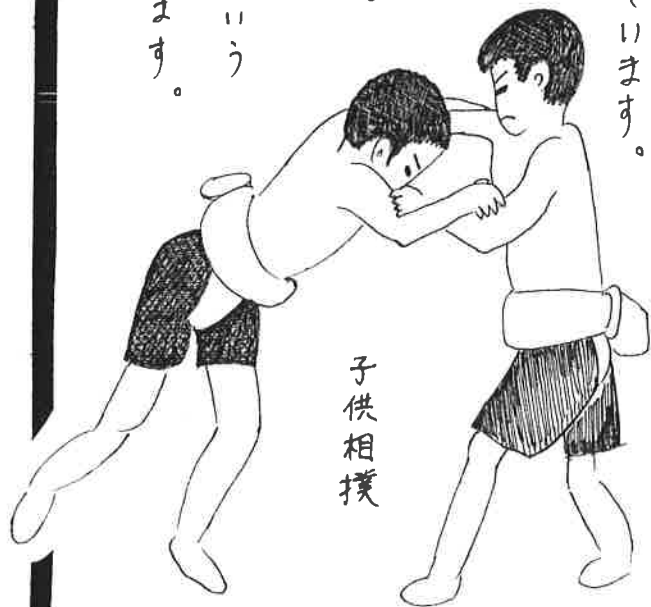
上吉田の山間の

## 千手観音信願相撲

開催日：八月十六日

荒川上田野の千手観音堂で「千手観音信願相撲」は行われます。文政年間(1818)に上田野村出身の隅ノ江津雲ハスミノエツクモツという力士が心願が叶い、その恩に報いたいと考えました。そこで時の花籠親方より辻相撲免許を受け、関東三辻の一つとして二重回しの土俵を設けて相撲道の普及発展に尽したことが信願相撲の始まりとされています。

信願相撲では二番取りといって、一戦目は本気でぶつかり、二戦目は始めに勝った者がわざと負ける、という仕組みで行われます。



子供相撲

耕地に伝えられ

てきた「小川の百八燈」



は、送り盆の性格を持つ行事です。

幻想的な送り火の祭りとして

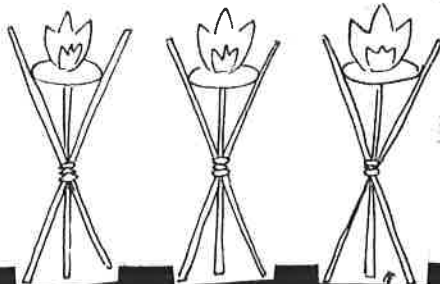
有名で、県選抜無形民俗文化財

にも指定されています。以前は、

小川地区の子供たちが司祭して

いました。現在は大人が執り

行つて、祭りの継承に努めています。



小川地区を通る県道の両側に「ウシ」と

呼ばれるかがり火を載せる燭台が500基ほど

並び、午後7時に一斉に点火されます。

この火の間を三往復し、かがり火の煙を

浴びると、その年は疫病にかからないと

伝えられています。祭りの終わりに花火

が打ち上げられ、山里の夜を明るく照ら

します。